



紹介者

平子 裕志

ANAホールディングス
特別顧問



安部 和志

ソニーグループ
執行役専務

日本の新しい「ものづくり」

今年のアカデミー賞で日本の2作品が受賞、という快挙が記憶に新しいですが、それに先立つ3月2日、世界中のアニメファンが注目するイベントが東京で開催されました。

日本ではサービスを展開していないため、ご存じの方は限られるかもしれませんが、ソニーグループが買収して運営する世界最大のアニメ配信サービス「クランチロール」は、有料会員数が1,300万人を超え、日本のアニメを200以上の国と地域に届けています。このクランチロールが主催し、ファンの投票で優れた作品やクリエイターなどを選出する「クランチロール・アニメアワード」の授賞式を、昨年に続き日本で開催。その様子はYouTubeで世界中に配信されました。

アニメファンを代表する各界のセレブリティ(グラミー賞歌手ミーガン・ザ・スタリオンや韓国のポン・ジュノ監督など)がプレゼンターとして参加し、熱気と華やかさに包まれた独特の雰囲気の中、3,400万を超える投票で選ばれた受賞作が次々と発表されました。最優秀アニソン賞を受賞したヒット曲「アイドル」のパフォーマンスをYOASOBIが行った場面で盛り上がりは最高潮に達し、東京の一角に世界中の注目が集まる空気とともに、真に世界をつなぐアニメの威力を痛感しました。

世界のコンテンツ市場規模は150兆円を超えるとも言われ、日本は米中に次ぐ第3位。社会の分断が進む中、日本のアニメは国を超えて人々の心をつなぎ、作中の音楽や日本語、さらには取り上げられる場所や日本食への関心を高める、といった副次的な効果も発揮しています。授賞式の会場で、世界の人々を魅了し続ける日本アニメのパワーに圧倒されながら、これは日本が世界に影響力を与える新しい「ものづくり」の力と言えるのではないかと感じ、また一層の進化の可能性にも思いをはせていました。

▶▶ 次回リレートーク

倉橋 隆文

SmartHR
取締役COO